



## 「椰子の樹」発刊に寄せて

會長 稲垣一良

あの悲惨な戦争が終結して六十二年になります。国民の多数が今の平和を歴史の一ページになろうとしています。父親の顔も知らず育つた赤児も、子を持つ孫と暮らすほど年月は過ぎても、肉親を失った悲しみは生涯忘れることが

はありません。しかし歳月の流れは止める事は出来ません。遺族も年々減少してきました。戦没された英靈の御靈をご供養し続ける為に私達はいま何をすべきか考える時だと思います。全国で戦友会から引継ぎ、組織として運営している会は長野県ニューギニア会だけになつたと聞いています。歴代会長さん方のご労苦と戦友の皆さんに心から敬意を表したいと思います。

この会報を発行する事になりました  
のは、会員の皆様が会の内容と運営に  
ご理解を頂き、役員と会員が相互理解

会員皆様のご理解をお願いしてご挨拶いたします。

氏は二二一キニア会の發展とハブアニューギニアとの友好親善に尽されて來ました。松本護国神社嗚呼戰友の碑に芳名板の設置については、お一人で各方面と交渉を重ね、これを完成しました。その功績は永く不滅のものがあります。

守り続けて行きたいとの考えです。

創刊号

平成19年6月20日発行  
長野市北長池1491  
発行人 稲垣一良  
印刷 神林印刷

副会長 原 雅彦

昭和四十三年十一月、在ニュージニ  
ア戦に参戦した「陸」「空」「海」「暁」  
部隊所属の生存戦友が大合同し、慰靈  
祭を催すと共に東部ニューギニア戦友

会が全国規模で結成されました。翌年二月十一日地元長野県において第一回目の設立総会の席上、「東部ニユーギニア戦友会長野県支部」として会の母体が発足しました。同年七月二十七日に第一回ニユーギニア方面戦没者慰靈大祭が護国神社にて執り行われ、同年十月から十一月にかけ第一回政府主催遺骨収集団が派遣、当会から細萱仙祐氏、温田市助氏両名が参加、その後昭和四十八年九月に竹節梅藏氏、六十年八月小林久光氏が参加されております。昭和四十六年二月十一日、総会において東部ニユーギニア戦友会長野県支部より「長野県ニユーギニア戦友会」に改名され、初代会長に大久保豊氏が就任し派遣され、当時団員二十名は鹿児島空港よりニユーギニアに飛び立ちました。昭和五十五年二月、二世会が発足し初代会長に西沢金治氏、二代目会長に高野尚氏が就任。平成五年第三代会長土屋利喜太氏就任時、二世会と戦友会を合併し「長野県ニユーギニア会」に改名し現在に至っております。

より平成三年十一月まで。二代会長「海野仙巖氏」平成四年二月より平成五年二月まで。三代会長「土屋利喜太氏」平成五年三月より平成十三年二月まで。四代会長「高野尚氏」平成十五年二月より平成十九年一月より。尚歴代会長は、交代から四代までが戦友が勤めてきました。

戦後すでに六十二年の歳月が流れ、全国各地に在りましたニューギニア会も殆どが解散してしまいました。我が会は本年度で慰霊大祭は三十九回、慰霊巡回団は三十一回、共に一度も欠かすことなく連続して継続し、現在に至っております。この間会として行つた事業は多方面に渡つております。昭和四十九年「嗚呼戦友の碑」の建立。昭和五十五年ウエワクコイキン地区に観音像の設置。記念誌「椰子の記」の発刊。この記念誌は平和へのいしづえとして長野県全ての高校へ平和教育の資料として、寄贈させて頂きました。戦没者及び帰還兵の芳名版の設置。ラバウル噴火及び津波被害に対しての義援金。ニューギニア写真展、ニューギニア在駐日大使の訪長要請等、数多く活動して参りました。慰霊巡回団におきましてもウエワク・マダン地区の数多くの学校に学用品、サッカーボール、地球儀、図書館への本の寄贈など、子供の将来を夢見る寄付も継続しております。

**第三十回  
パパニアニューギニア慰靈巡拝団**

**巡 拝 報 告**

本田昌彦

**第一日目** 成田空港を後に空路ポートモレスビーへ。

**第二日目** 早朝四時三十分ポートモレスビーに到着。空港を出ると、熱帯特有の生暖かい風が頬を打ち、ニューギニアの独特的の臭いを感じる。レストラン大黒にて朝食後、直ちに空路ウエワクへ飛ぶ。到着後、毎回お世話になつてゐる川畑さんのウエワクホテルへ行く。ご存知のとおりこのホテルの設備は決して良くないが、ニューギニアへ来たという実感が湧き、内心ほつとする。

午後、慰靈の森平和公園にて、第一回目の慰靈巡拝式が行われた。

激戦の地ウエワクでの戦没者を悼み、往時を偲び涙する人多し。引続き、コイキンマリックの観音像の前で、第二回目の慰靈巡拝式が執り行われた。平和公園と同様ここでも新たな涙を誘う。その後は眺望の素晴らしい洋展台へ登り、帰り際に高射砲陣地跡へ立寄り、ホテルへ戻る。

今日一日は、深夜便、移動、慰靈巡拝、戦跡巡り等過密スケジュールのため、皆さんお疲れの様子。

**第三日目** 今日は三つの方面に分れての巡拝が行われた。横田副團長以下十九名の方々はボイキン、ブーツ飛行場跡、ソナム部落での慰靈祭。

稻垣団長以下四名の皆さんは、稻垣さんの父上の眠るポカコ（山南）での慰靈巡拝。

私共五名は、母なる川セピック川の川沿いの部落カンランバへ。

それぞれのコースとも、初期の目的を果たし、全員無事に夕食前にホテルへ戻られた。

**第四日目** 雨の中、ホテル近くの学校、ウエワク・インター・ナショナル・プライマリースクール訪問、サッカーボール、学用品をプレゼント。毎年のことながら、子供達は大喜び、日本から重い荷物を持ってきた苦労が報われる。大きな澄んだ瞳、人なつっこい笑顔は決して忘れられない。

午後、井出さんの父上の終焉の地、松の岬の砂浜で、簡素な慰靈祭を行ない、御靈のご冥福をお祈りした。ウォーム岬の連合軍の記念公園を見てワニの養殖場を見てホテルに戻る。

**第五日目** 空路マダンへ。マダン・リゾートホテルで朝食後、ヤボブヒルの墓標前で慰靈祭を行う。

灼熱の太陽の下での式、皆滴る汗と涙を拭う。

引続き、マダン地区の学校訪問。今回、バフォルプライマリースクール、先生、生徒共総出の歓迎を受け、友好

親善の目的を果した。

ビルビルビレッジでは、華麗なシン踊りを堪能した。

午後、旧飛行場跡に残る航空機の残骸、第十八軍の司令本部跡のアムロン台地及びアレキシスハーベンへ。

この周辺の浜辺で、ダンピール海峡で父上を亡くされた矢島さんは、松本より持参された亡き母上の遺骨の一部を海に撒かれ、亡きご両親のご冥福を皆でお祈りした。

マダンは美しい入江、シンボルのガジマルの木に群がるフルーツコウモリ、朝・夕陽の美しさ、リゾート地マダンはホテルも快適。

**第六日目** 空路ラバウルへ

平成六年の花吹山、西吹山の噴火により、ラバウルの旧市街は壊滅的な打撃を受けた。今でも花吹山のパブル山は黒煙を上げ、火山灰を流している。

昼食後、慰靈祭を日本政府建立の南

より火山灰に埋もれてしまつたが、現在は灰は取り除かれているが、建造物の所々に破損箇所がある。

この南太平洋地域で戦没された関係者はもとより、全員で御靈の安らかな香、故人の冥福を祈つて合掌する。旧海軍防空部隊指揮所跡を経てホテルへ戻つてこれなかつた所とのこと。皆で焼香、故人の冥福を祈つて合掌する。旧海軍防空部隊指揮所跡を経てホテルへ戻る。広島県より参加された牧原さんの長兄がここから飛び立つたのが最後で再び戻つてこれなかつた所とのこと。皆で焼香、故人の冥福を祈つて合掌する。旧海軍防空部隊指揮所跡を経てホテルへ戻る。

**第七日目** 日本軍防空壕跡、隣接する展示場を巡り、大発洞窟

海岸沿いの道路から少し入ったジャングルの中にひつそりとたたずむトンネル内には、現在でも五艘が格納されている。かなり痛んでいるが、往時を偲ぶ縁がとして貴重な存在だ。

ココボ戦争博物館は日本軍、連合軍の銃、戦車、飛行機の残骸が数多く展示されており、管理も行き届いていた。

ココボ地区はラバウルの南東三十kmのところにあり、噴火後政府機関、銀行、商店などが移転し、新たな賑わいをみせている。

夕刻の便でポートモレスビーへ移動。

鉄板焼の夕食に舌鼓を打ちつつ、ニューギニアの旅の思い出を互いに語り合い、盛会のうちに終る。

**第八日目** ニューギニアにおける最終日、国會議事堂、市内見物、買物などをして昼食後空港へ。ニューギニア航空にて帰国の途へ。

ニューギニアで過した日々の思い出を胸に各々の家路に就く。



ラバウル慰靈碑前

高野尚さん、

## 潤子さんを

想  
ん  
で

宮嶋  
叙子

三月三日の夜、御宿に作一が時、  
安らかな永遠の眠りにつかれた姿でした。でもいつものように「おい、何し  
に来た」と今にも云つて下さるような、  
そんな気がしました。

いつもその度顔を見に寄りました」が定番。昨年十月頃より体の調子を淡々と話をされた。「そんなに駄目だあ、駄目だと云えば、奥さん悲しがられるよ、まだ私のそばに来るのは早すぎるつてしかられるよ」との話に返答は決つて、「早く来いって待つてらあ」と一昨年六月潤子さんに先立たれからは、廻りで見えていても痛々しいほど、元気がなく、それでも、その年の九月ニューギニア現地慰霊巡洋は、団長としての任務を果すべく訪れ、急きよ由美さんが同行された。帰国された時、由美さんが「お義父さんね、ニューギニアへ行つてから目が輝いているの、本当にニューギニアが大好きなんだね」と話された。私も四回同行しました。私の父は「ハンサ」で亡くなりましたが、高野さんのお兄さんの亡くなられた「板東川」へ二回同行しました。途中無数の蝶が飛びかい、蝶の道案内、導いてくれているようにも感じ、現地慰霊巡洋の中でも、思い出の残る旅でした。坂東川慰霊の途中、

毎回スワイン部落に立ち寄られるそうです。その部落で見た光景は、高野御夫妻との友情関係の深さにおどろき、私も仲間に加わって「すごいんだあ」の一言に尽きました。酋長とのきずなに胸が熱くなつた事。さつそく酋長さんの一声で即席歓迎レセプションと早変りになる。美しい静かな集落の人々も大切な日本の友人を失つてしまつたけど、でも国はちがつてもきっと心のきずな



第29回（平成17年）最後となつた  
慰靈巡拝 ヤボブヒルにて 8/23

どいの気持と淋しさは消える事はない  
と思いますが、御二人の意志を多少なりとも継げたらと思います。平成十七年、幾多の問題を解決、長い間のニユーギニア会の念願であつた、芳名板の設置に対しては前向きに対応され実現された事、長野県ニユーギニア会の為に貢献された高野さんに心より感謝します。松本護国神社境内鳴呼戦友の碑の傍らに設置された芳名板に刻まれた亡き父の名前を見る時、そこに亡き父が軍服姿で現れるような気がします。

相模会長さんより一宮岬さん高野さん  
の地元と云う事で、何か一言」と  
電話をいただき、高野尚さん、潤子さん  
を想い偲んで投稿しました。  
心よりお二人のご冥福をお祈りしま  
す。 合掌

合掌

日程表を添付しますので内容をよく確認の上お申し込み下さい。期日は平成十九年九月二十二日(土)から九月三十日(日)の九日間です。参加費用は東部方面約三十一万円、西部方面約三十六万円を目安にして下さい。（成田発着で諸費用は別になります）参加人数等により異なる場合もあります。現在詳細な見積もりを依頼中です。

詳細につきましては参加希望者には旅行会社より後日案内が送られます。内  
多數の参加をお待ちしております。内  
容確認又は、不明な点がございました  
ら左記までご連絡下さい。

○九〇一一四二六一三九〇七（原）

村内各種団体やニュー・ギニア会協賛のもと「ふるさとらんどおがわ」にて「世界の秘境ニユーギニアと擊墜王西沢廣義展」を十月二十五日から十一月二十六日までの一ヶ月間小川村（旧県庁移築場所）にて開催することになりました。

世界の秘境ニユーギニアと  
最強撃墜王西沢廣義展

小川村では二十九人全員がニューギニアで亡くなっています。十一月三日は公民館でラバウル航空隊で活躍し、

第三十一回

## 慰靈巡回団派遣について

本年度の現地慰霊巡回団の日程が決定いたしました。今年は東部ニューギニアと西部ニューギニアへ同時日程で現地派遣することになりました。東部ニューギニアへは三十一回連続の派遣になります。西部ニューギニアへは四回目で、合同で実施するのは二回目となります。

日程表を添付しますので内容をよく確認の上お申し込み下さい。期日は平成十九年九月二十二日(土)から九月三十日(日)の九日間です。参加費用は東部方面約三十一万円、西部方面約三十六万円を目安にして下さい。(成田発着で諸費用は別になります) 参加人数等により異なる場合もあります。現在詳細な見積もりを依頼中です。

詳細につきましては参加希望者には旅行会社より後日案内が送られます。多数の参加をお待ちしております。内容確認又は、不明な点がございましたら左記までご連絡下さい。

○九〇一一四二六一三九〇七 (原)

世界一の撃墜王と言われる外石の西沢廣義さんの「最強撃墜王」の著者三木市の武田信行氏とラバウルから生還した伊藤環氏(元小川村村長)の講演を計画しております。他にも沢山の企画をしておりますので会員の皆さんのお越しをお待ちしております。

一〇五五

## 第三十九回

## 通常総会行われる

長野県ニューギニア会通常総会が、去る二月十一日松本市浅間温泉ホテルで行われた。今回の総会は高野会長病気療養中の為、一月の役員会で決定した。稻垣会長代行の下に総会の準備が進められ、資料作りが行われました。

今回の資料作成に当たっては、各部門の担当役員は自分の分野は責任を持つて資料の作成を行うようとの代行の考えに基づき、総会資料が作られた事は前回までと異なり、会員（役員）が一体となり、ニューギニア会を盛り立てて行くとの稻垣代行の方針であつた。総会当日は稻垣代行が議長になり議事を進め提出された議案が原案通り承認決定された。

一、平成十八年度事業報告  
一、平成十八年度収支決算書

一、平成十九年度事業計画  
一、平成十九年度収支予算書

十九年度の主な事業、予算について報告します（事業）

一、第四回西部ニューギニア戦没者慰靈巡拝

二、第三十九回長野県ニューギニア方面戦没者慰靈大祭（七月二十九日）

三、第三十回東部ニューギニア方面戦没者慰靈大祭（九月予定）

四、第四十回ニューギニア会総会（二年二月）

五、長野県ニューギニア会会報発刊

収入

## 一般会費

年会費（三百名）	九〇〇、〇〇〇円
年会費（未納分）	三〇〇、〇〇〇円
大祭参加費（百五十名）	三〇〇、〇〇〇円
遺族等玉串料外	一五〇、〇〇〇円

## 特別会費

大祭前宿泊	四〇〇、〇〇〇円
役員会議負担	二〇〇、〇〇〇円
繰越金	一〇〇、〇〇〇円

## 奉告祭

大祭前宿泊	一五〇、〇〇〇円
役員会議負担	七七九、七八三円

合計 三、二七九、七八三円

## 支出

慰靈大祭費	七二五、〇〇〇円
慰靈巡拝費	五二五、〇〇〇円
総会、会議費	七〇〇、〇〇〇円
通信費	一〇〇、〇〇〇円
事務費	一二五、〇〇〇円
交際費	五〇、〇〇〇円
旅費	五〇、〇〇〇円
鳴呼戦友の碑	三〇、〇〇〇円
予備費	四〇〇、〇〇〇円
翌年度繰越金	五七四、七八三円
合計	三、二七九、七八三円

封書でお送りください。

稻垣 一良 あて

## 会員募集のご案内

長野県ニューギニア会は、会員の皆様の会費で運営されています。平成十九年度会費は、多くの皆様に二月十一日の総会までに納入していただき、ありがとうございました。

未納の方には、再度請求書をお送りますので、慰靈大祭までに納入いただきますよう御協力を願いいたします。ご案内に関する疑問は、遠慮なく左記にお問い合わせ下さい。

また新しい会員を募集しておりますので、入会希望の方がおられましたら、左記に御連絡下さい。

## 投稿歓迎

お気軽にお立寄り下さい

協賛会員

画廊喫茶 ゆえ

長野市岡田町166-1

森ビル1階

☎ (026)225-0221

## 編集後記



（横田）

（荒井）

編集委員（原 雅彦・大久保寛憲・

長田健治・荒井 紗・竹村 淳）

次に役員改選が行われ、新会長に稻垣一良さんが選出されました。歴代会長さんは戦友や兄弟で、始めて戦没者遺児としての会長であります。

時代に合った会の運営と、ニューギニア国との友好親善事業を進めていた

だく事を期待し、第三十九回ニューギニア総会報告とします。

なお、いたいた原稿につきましては、紙面の都合で大幅に短くさせていただきました。

念願の会報「椰子の樹」が発刊の運びとなりました。会報の目的は行事に参加できない方々に、活動内容をお知らせするとともに、会の現状を理解頂き、今後も末永くご協力いただけるよう、メッセージをお届けするものです。

日本で唯一残されたニューギニア会として、亡き英靈を供養し、恒久平和をのぞむ会として、役割を果たして参ります。発刊に際しご協力頂きました会員の皆様にお礼申し上げます。

今回五名の編集委員の選出は役員会において会長より地理的な都合で長野市周辺の会員の中から選ばれました。時間的な制約もあり、必ずしも満足のいくものではないかもしませんが、ご理解を頂きますようお願い申し上げます。

なお、いたいた原稿につきましては、紙面の都合で大幅に短くさせていただきました。

長野県ニューギニア会通常総会が、去る二月十一日松本市浅間温泉ホテルで行われた。今回の総会は高野会長病気療養中の為、一月の役員会で決定した。稻垣会長代行の下に総会の準備が進められ、資料作りが行われました。

今回の資料作成に当たっては、各部門の担当役員は自分の分野は責任を持った資料の作成を行うようとの代行の考え方に基づき、総会資料が作られた事は前回までと異なり、会員（役員）

が一体となり、ニューギニア会を盛り立てて行くとの稻垣代行の方針であつた。総会当日は稻垣代行が議長になり議事を進め提出された議案が原案通り承認決定された。

一、平成十八年度事業報告  
一、平成十八年度収支決算書

一、平成十九年度事業計画  
一、平成十九年度収支予算書

十九年度の主な事業、予算について報告します（事業）

一、第四回西部ニューギニア戦没者慰

靈巡拝

二、第三十九回長野県ニューギニア方

面戦没者慰靈大祭（七月二十九日）

三、第三十回東部ニューギニア方面

戦没者慰靈大祭（九月予定）

四、第四十回ニューギニア会総会（二年二月）

五、長野県ニューギニア会会報発刊

（横田）

（荒井）

編集委員（原 雅彦・大久保寛憲・

長田健治・荒井 紗・竹村 淳）